

議事録(抄)

提出日：令和2年10月1日

会議名	整理番号
令和2年度 平戸市介護保険事業計画等策定委員会（第2回）	
出席者（委員）	日時
宮本委員（会長）、末吉委員、佐藤委員、曾川委員、 濱崎委員、宮崎委員、川口委員、岩本委員、藤島委員、 久家委員、福浦委員、松永委員、小崎委員、山本委員、 塚本委員（順不同） 【15名出席】	令和2年9月30日（水） 15:00～16:40
出席者（事務局）	場所
福祉部長 榊田、長寿介護課課長 尾崎 長寿介護課井上、松本、藤井、田中、作江、 ぎょうせい：長澤	平戸市社会福祉協議会 集会室

協議内容

●資料

- ・ 会議次第
- ・ 資料1：第7期事業実績報告
- ・ 資料2：介護保険事業等の実績・状況について
- ・ 資料3：サービス提供事業者調査結果報告
- ・ 資料4：在宅生活改善踏査集計結果報告
- ・ 資料5：介護人材実態調査結果報告
- ・ 資料6：第8期計画骨子案について
- ・ 資料7：第8期計画に係る高齢者人口推計
- ・ 資料（当日配布）：地区別介護認定者数

●配布資料確認

●開会

●会長挨拶

（会 長）今年には新型コロナウイルス感染症、長雨、台風9、10号と大変な状況が続いた。新型コロナはウィルスが消滅したわけではなく、今後も感染予防に十分気を付けていかなければならない。本日は、第7期の実績報告、事業者調査等の報告、骨子案などが予定されている。委員の皆様には審議をよろしくお願

いたします。

●会議成立の確認

(事務局) 委員は4名欠席。委員の過半数出席により会議成立となる。(15名出席)。

・藤島委員の紹介。

【以降、会長による進行】

●議事

(1) 第7期の実績・状況について

・資料1に沿い事務局より説明

(事務局) 主な事業について抜粋して説明する／令和2年の実績は現在の見込み／p2、敬老祝金・長寿祝金／p12、介護支援ボランティアポイント事業／p13、高齢者虐待防止ネットワークの構築／p15、介護職人材確保支援事業／p15、介護予防・生活支援サービス事業／p16、介護予防教室／p18、地域住民グループ支援事業／p19、地域づくりによる介護予防推進支援事業／p21、認知症サポーターの養成／p22、認知症カフェの設置／p23、総合相談支援・権利擁護事業／以上について抜粋説明

・資料2に沿い事務局より説明

(事務局) p1、高齢者人口等推移、高齢化率は継続的に上昇。平戸市は国・県を上回る状況／p2、第1号被保険者数、後期高齢者の割合は県・国より早く下降が始まっている／p3、認定者数、要介護1が多く、介護予防、フレイル対応が重要／p4、認定率、平成29年以降下降しているが総合事業対象者がこの数値からはずれなかったから。ただし、総合事業対象者を加えても下降となる。介護予防の効果と考えられる／p5、認定率は平成28年をピークに下降／p6、サービス類型別受給者、H29開始の総合事業により、居宅サービスが減少／p7、給付費、平成29年がピークでその後減少、居宅サービスが継続的に減少、総合事業を含めた場合も総合事業開始前とほぼ変わらず横ばいである／p8、給付費の構造、総じて施設サービスの割合が平戸市では高い。7期、小規模を度島に開設予定だったところ事業者が決まらず、地域密着型通所介護を始めた。お泊りデイサービスは開設のめどが現在たっていない／など

【質疑】

(委員) ボリュームのある資料だった。できれば当日ではなく事前配布願いたい。資料1の評価結果は大切なものだと思う。課題と対応策が空欄のものがあつた。介護職員人材確保支援事業については課題等空欄だがここはどうなのか。

(事務局) 市内の人材確保のために資格を取った人を支援するという取組はほぼ実施できたが、学生対象のインターンシップ事業が、昨年1事業所のみ受け入れて、各事業所さんの受け入れ体制が整いにくいこともありなかなか進んでいないの

が課題。今後、事業所への再依頼も含め継続したい。

(委員) 新規雇用の年齢制限など緩和してほしい。外国の方の受け入れについて、外国の方は日本の中でも地域を比較して決めるのだから、祝金などはアピールになると思うので検討してほしい。

(事務局) 年齢制限 25 歳といったところについて、介護人材の状況としては、年齢にどの層が就職・離職が多いのかなども調べており、後ほど説明させていただく。今後の検討課題として認識している。

(2) サービス提供事業者調査等の報告

・資料 3 に沿い事務局より説明

(事務局) 第 8 期策定に係る国の手引きなどを参考に行った調査である / p 3、利用申し込みへの対応状況では余裕ありは居宅が多い / p 4、苦情はサービス内容、職員の態度など / p 5、利用料等の徴収状況、中には支障もみられる / p 6、収支状況、在宅サービスで赤字が多い印象 / p 7、見込み量はほとんど当初見込み通り、「少ない」は在宅が多い / p 8、現行の指定基準、おおむね妥当が多い、緩和を図るべきも見られる / p 9、介護報酬、おおむね妥当、もっと引き上げるべき、が多い / p 10、事業運営上の課題、従業者の確保、事務作業が多い、などが見られる / p 11、今後の事業展開、新規では特定施設入居者生活介護、次期は未定のようなのである。拡大は通所介護の事業所で定員増加。通所介護では縮小も 1 か所 / p 12、自由意見。居宅介護、ケアマネの後継者がいない、人員確保。訪問介護でも人員確保。通所介護では専門職を探すのが大変。通所リハビリ、短期入所生活介護、認知症対応型共同生活介護、などなど人材確保の課題が多数 / p 14、職員の人数でも不足の意見が多く出ている / 見える化システムで理学療法士の状況を確認したところ、平戸市は全国・県より事業所数は多いが、職員は少ない。ここは課題と感じたところである / p 16、市が取り組むべき課題では介護職人材確保支援事業の継続への要望あり / など

・資料 4 に沿い事務局より説明

(事務局) 送付した 17 事業所すべてから回収。過去 1 年、令和元年 6 月 1 日からの 1 年の状況について聞いている / 居場所変更の行先では、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム特、グループホームが多い / p 8 から、生活の維持が難しくなっている理由についての集計である / p 14、生活の改善に必要なサービス変更。緊急で特養が必要という人は少ない。特養だけでなく代替可能となるサービスは多様である / p 16、特養等に入所できていない理由は、軽度では申し込みをしていない、重度では申し込みをしているが空きがない / p 17、特養以外で入所できていない理由、軽度では申し込みをしていない、重度でも申し込みをしていないが多いが、33.3%は申し込み済みだが空きがない / p 18、自由記入、看護小規模多機能の事業所がない。定期巡回サービスがあればよい、小規模多

機能が生月にしかない、ショートステイ満床のところが多い、定期巡回・随時対応型訪問看護介護サービスがあればよいといった記入が見られる／など

・資料5に沿って事務局より説明

(事務局) p 3、介護職員の属性。男性は30代、女性は50代が多い。訪問系では60歳以上が3分の2を占める。訪問系では非正規が半数。通所系では非正規が約3割／p 6、採用者、介護職員は30代が多い／p 7、離職者、介護職員は30代、続いて20代、40代／単純比較すると46人採用に対し離職が51人である／p 9、過不足状況では不足が多く、p 10の理由では「採用が困難」が多い／p 11、採用が困難な理由、同業他社との人材獲得競争が激しい、が最も多い／p 13、賃金の支払い形態は平均をご参考までに記載したものである／p 15、訪問介護員の年齢別のサービス提供時間、身体介護は30代で最も多く、年齢が高くなると身体介護は減る／など

【質疑】

(委員) 非常に意義のある調査だったと思う。特に資料4は、地域の方に必要なサービスは何かを把握する調査で、ぜひ継続をお願いしたい。資料4のp 6の生活の維持が難しくなっている利用者について、判断基準は何か決まっているものか、ケアマネジャーさん個人のご判断か。

(事務局) ケアマネジャーの判断によるものである。

(委員) 判断は個人により差があると思う。ここに出た87人は緊急性が高い人ということだろう。それは判断しやすいだろうが、ここに出てこない予備軍がいる可能性があるだろう。その予備軍の数字が把握でき、対処できれば、在宅生活を続けていく人が増え、なお良いのではないかと思う。施設関係者のご意見も聞いてみたい。

(事務局) 予備軍の方については、ケアマネジャーへのヒアリングを行うなども今後必要かと思っているところ。施設関係者の委員さん、何かありますか。

(委員) 入所が必要とケアマネジャーさんが判断する方の他に、予備軍がいることは感じるが、入所検討委員会の判断を経て入所が決まっていくようになっている。また、資料3にあった利用者からの苦情に関して、事故報告書を作成しているが、その結果をお知らせする機会があればと思う。

(事務局) 報告結果を開示するよう県などからは言われている。いろいろな場所でできるものは事業の運営会議などで開示することも今後考えたい。また事業所訪問などでの聞き取りも検討したい。

(委員) 在宅生活の維持が難しい人が87人となっているが、うちは中間施設であり、相談はあるがここまでの相談をいただくことはなかなかない。課題の自由意見でショートステイ満床とあるが、私どもに関して言えば受け入れ可能な状況で

ある。また、ケアマネジャーとしてのつながり、所属事業所を超えての横のつながりがなかなかないのかもしれないと感じた。

(事務局) ご意見を伺って、今回の調査だけでは見えないこともいろいろあると感じた。参考にさせていただきたい。

(委員) 訪問系でケアマネジャーさんが必要と考えているサービスを見ると、かなり高度なサービスが多いように見える。要支援者・要介護者など、軽度・重度でさらに区分けして把握できるとなおよいかと思う。ケアマネジャーさんが必要と考えていても、サービス提供側では赤字であったり、需要がそれほどないと捉えられている状況もあるだろう。それらも課題かと思う。

(事務局) 委員の皆様からのご意見がとても参考になる。私共も今後も取り組みたいのでご指導よろしくお願ひしたい。

(3) 第8期計画骨子案について

・資料6に沿い事務局より説明

(事務局) 現段階の案であり今後の変更もありうるものである／指針による記載検討を中心に説明／PDCAサイクルの推進／地域共生社会の実現に向けた考え方や取組／圏域は7で継続／各論の各事業は新規・継続・削除を確認中である／安全・安心のまちづくりでは災害、感染症対策などの追加／介護予防・生活支援サービスは訪問型、通所型それぞれ7期実績を記載／在宅医療・介護連携では看取りや認知症への対応強化を検討／認知症施策は大綱に基づき記載を検討／任意事業では主要5事業の目標を記載／高齢者の居住環境の整備と地域資源の活用のところ、生活面に困難を抱える高齢者に対する対応の記載を検討／サービス付き高齢者向け住宅について都道府県との情報連携／高齢者等の推計は、R7、12、17、22年を記載する／2040年までの予測を記載／計画の進行管理と評価・点検では、交付金指標の活用について記載を検討する／など

【質疑】

特になし。

(4) その他

・資料7に沿い事務局より説明

(事務局) 第8期に係る高齢者人口推計、前回会議での要望もあり人口推計を行ったものをお示しする／住民基本台帳を基に推計したものである／平戸市の人口減少の予測が出ている／先日耳にしたアメリカの研究では、日本は80年後、今の人口の半分になるというショッキングなものであった／この人口推計は住民基本台帳による人口推計であり、保険料算定に使用する第1号被保険者数とは相違もある。大きな相違ではないが、国が示している社人研推計から被保険者数の

補正を行った数値なども参考に保険料推計をしていきたい／など

・資料8に沿い事務局より説明

(事務局) 委員会でのご意見に沿い、地区別介護認定者数をまとめたものである／平成元年度末を見ると、認定者数の割合は市全体では18.7%だが、度島、生月、大島地区は割合が高くなっている。

【質疑】

(委員) たくさん資料のご準備ありがとうございました。塚本委員のご意見にあったとおり、資料を消化するだけで一生懸命な感じである。できたら調査結果などでも概略的な資料があるとよいと思う。前回、今回合わせて5つの調査があり、事業評価も本日示された。それらを踏まえての評価・課題・方針を示していただけるとよい。ご苦労なされたものを「見える」形でまとめてもらえるとよいと思う。

(事務局) 今回、資料ボリュームがあり、資料説明に終始してしまった。次回は素案のご提示で、その前の今回で結果概要など資料が準備できればよいと思っていたができなかった。今後ご指摘にお応えできるよう努力していきたい。

(会長) 次回の素案ではこれらを踏まえた素晴らしい案が出てくるだろうと期待したい。

●次回の予定について

(事務局) 11月の月上旬ごろを予定したい。計画の素案をお示しする予定である。また、給付の見込み推計についても提示予定である。資料は事前配布を目指したい。日程詳細は改めてご案内する。

以上